

## 台木播種から1年以内でできる カキ苗木の生産方法

カキの苗木は、通常、露地で台木用の種子を播種して台木を養成し、目的とする品種を接ぎ木して翌年秋まで育成し、その後掘り上げて販売します。このため、苗木の生産に2年かかる上、苗の掘り上げに労力がかかること、掘り上げの際に根が傷み、定植後の活着が不良なため生育が遅れる等の問題があります。そこで、奈良県農業総合センターでは、加温条件下でポット育苗した台木に子葉あるいは本葉を残したまま接ぎ木を行い、1年以内で苗木を生産する技術を開発したので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 台木用の種子を加温下で1～2月にセルトレイ等に播種し、発芽後2～4葉展葉時に、ポットに移植します。穂木は休眠期に採取し、冷蔵保存します。
2. 台木に子葉あるいは本葉を残したまま、春から夏までに接ぎ木します。接ぎ木後は、展葉・新梢伸長まで遮光（50%程度）で養生・管理します（図1）。接ぎ木後60日以降に大きなポットに移植します。
3. 台木の葉を残さないで接ぎ木すると活着率は著しく低下し、新梢伸長も抑制されます（図2）。
4. 台木種子の播種から1年以内に苗木が完成します。接ぎ木の時期が早いほど、新梢長の長い苗が得られます。接ぎ木部位の茎径は3mm以上が必要です。

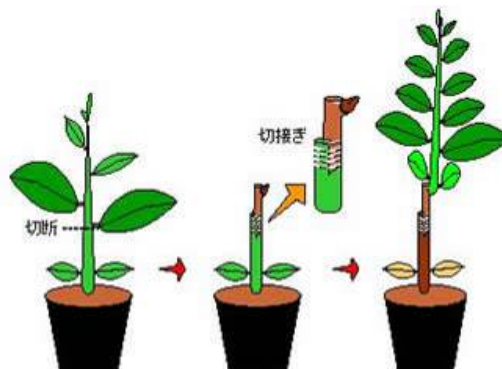


図1 台木の子葉を残した接ぎ木

（図及び写真提供：奈良県農業総合センター）



図2 接ぎ木苗

左：子葉有り、右：子葉無し

4月接ぎ木、7月撮影

### ☆ 活用面での留意点

1. 接ぎ木後に移植するポットのサイズが大きいほど接ぎ木苗は大きくなります。10号ポット（直径約30cm）では、台木種子の播種後2年目で樹高約2mの大苗になり、3年目に定植すると当年から収穫が可能です。
2. 本苗木生産法は「カキ苗の周年生産方法及び苗（特開2008-000063）」として特許出願中です。その他、詳細については、奈良県農業総合センター・果樹振興センター・栽培管理チーム（電話：0747-24-0061）まで、お問い合わせください。

（日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 後藤 明彦）